

HyggeHouse 里山の小さな家

2013年9月完成

敷地面積：164坪 建物延床面積：28.5坪

家族構成：30代夫婦+子供3人

設計施工：株式会社シンケン

設計コンセプト

土地購入からの施主が見つけた土地は格安の里山のなかの土地だった。その土地は、一見藪のような、クヌギ畑。

売りには出されていたものの、立地とその風貌から幾年も売れずに残っていた土地。

北側が開けた敷地でその北側の景観にほれ込んだ施主の思いから計画がスタートした。

ギリギリの予算であったこともあり、出来るだけコンパクトになるように平面が検討されている。

1、子供がいても、夫婦二人暮らしでもちょうど良い家。

子供が独立したあとの長い夫婦二人暮らしの生活を見据え、子供用のスペースは必要最低限の広さに抑え、自由に間取りが変えられるように計画。

2、自然・景観と溶け合う家。

周辺の里山の景観にほれ込んだ施主の思いと敷地の特異性を最大限生かした計画。

購入した敷地は、南北に長いVの字のような形状の敷地であり、北側に開けた眺望と、クヌギ林のような状態だった敷地の特性を生かし、敷地の重心に建物を配置し、敷地の北と南を分ける配置計画からスタート。

南側は道路向かいの隣地との距離を取ることと、夏の陽射しよけをかねてクヌギの木々を残し、雑木林のような庭に。北側は遠くまで広がる田園と山並みを望むために一面芝生にし、造園で丘をつくり、北に向かって上りゆく地域になじむように計画している。北と南に大きく開くことにより、1階のスペースは夏と冬で居場所が入れ替わるフレキシブルな使い方を想定した。

3、家事が楽になる家。

6m×8mの平面に全てをおさめることと、プライベートとフォーマル空間を分けるために、2階に浴室を配置。家族分のクローゼットは、浴室出口にOPENクローゼットの形とし、どこからでも

アクセスができる。収納量を決めつけないことで、家族構成の変化にも対応できる。

4、兼ねる家

階段を上りついた2階、わずかに吹き抜け側に張出した床部分は家事コーナーとなったり、読書コーナー、子どもたちの着替えスペース、主人の仕事スペースと様々な用途を兼ねる場所となっている。また、階段は上り下りの通路としての機能だけではなく、収納・居場所・カウンター・ソファの背もたれなどの機能を持たせることと、キッチンから北側の庭が見渡せるように独特の形状をしている。

5、壁をつかう家

基本構造は在来軸組パネル工法。柱・梁などの構造材は基本的にはあらわしで計画し、外張り断熱とし50cm間隔(メーターモジュール)間柱を室内側に露出して仕上げることで、あらかじめ間柱に着脱可能なパーツを作成し、壁を収納やディスプレイとして使う計画。また、住まい手が住みながら手を入れることが容易になるように計画している。

実際に住み始めて2年半が経過した現在いたるところに住まい手による“進化”のあとが見られる。

6、濡れ縁

北側の眺望をそのまま居間に引き込むことと、芝の庭を生活に近づけるために設置された、北側の2m×2スパンの大開口木製サッシとその外側に設けられた濡れ縁は、必要以上に和風な印象にならないように、片流れの外観と併せて、玄関ポーチ屋根との連続性を持たせ意匠的な検討をした。

